

詩編 17 編 (2) 後半 9～15 節 主よ、立ち上がってください

詩編 17 編は「主よ、祈りに耳を向けてください」との祈りで始まり、神と人を身体的に表現し、その深い信頼関係を謳いあげています。そして、8 節に、「瞳のようにわたしを守り、あなたの翼の陰に隠してください」という名句が登場しているのを先回心に刻みました。今回はその後半、9～15 節を読みましょう。9～12 は信仰者に敵対する者の存在、13～14 節前半は、主が「立ち上がって」、敵対者と闘って下さることへの懇願、14 節後半～15 節は、主のみもとに隠れる人の幸いと満足が歌われます。

・信仰者に敵対する者たち

信仰者を追い詰め、包囲する者たちは、まず、主なる神（あなた）に逆らう者であると言われます。しかし、ヘブライ語原文はそうのように読みにくいです「わたしを抑圧する」(shaddun, shadd は暴力で扱う、攻撃する)「邪悪な者たち」(reshaim, rash') から護り、「わたしを包囲する (yaqqipū)、死のような (benepfesh, nepfesh) わたしの敵たち ('oyebay) から (守り給え) とあるだけです。敵は「命がけで」信仰者を抑圧、包囲するとはなんと深刻な表現でしょうか。生半可の敵対者ではないのです。彼らは脂のたまった (心臓) (helbāmōw) を閉ざし、塞ぎ (sāgarū. shut up) (己が心を塞ぎ、あるいは、美味しいものを食べ脂肪がたまった脂肪肝ならぬ脂肪心臓?)、彼らの口で誇って語っています。今や、彼らは彼らの目をわれわれの歩み (あるいは歩みながら) に留めており、地に打ち倒そうと、われわれを取り囲んでいるのです (sebābūnū)。それは、獲物を喘ぎ求め、隠れている若いライオンのようなものです。なぜ、このような執拗な表現が続くのか黙想します。人生の過酷さを生きている人々を思い浮かべましょう。

・主よ、立ち上がって下さい

そのような危機の中で、信仰者 (たち) は、主なる神が自ら立ち上がり (詩編 9:20 参照)、敵対者 (ここでは単数、彼の顔に向けて pānāw 参照創世記 32:30 「ペニエル」 「顔と顔を」 ファーニーム エル ファーニーム) 合わせて闘って下さること (投げ倒すこと) を懇願します。主は「万軍の主」です! 神が敵に顔を向けることは敵には恐るべきことですが、信仰者にみ顔を向けてくださることは、畏れはありますが、嬉しいことです。信仰者は「主が私のいのち (魂) を邪悪な者から、あなたの剣で救って下さい (pfallatāh, pfalat, escape, piel to let escape, deliver 継続的に逃れさせて下さい) と懇願します。

・御もとに隠れる人の幸い

敵対者に対する懇願は、次に、主に信頼する人に向けられます。「御もとに」は翻訳に問題あり。「隠れる」をどこにかけるか? 「生において、この世に嗣業を持つやから (世俗的人間たち) から、「あなたのみ手(で) (yādekā, yad. ) (救い出してください)。「あなたは、満たして下さる (継続形)」。そして、隠れた宝 (で) (ūsepfūneka, to lay, treasure up, part pass. treasure) 子らはその腹・食欲は満足し (yisbeū 継続形)、子らに満足し (子らを残し)、その豊かさを幼児に残します。子どもたちが与えられることも祝福ですが、子どもを持たないこと、持てないこと (与えられないこと) もまた「祝福」の形です。一人で生きる (交わりの中で)、あるいは、親とともに生きることも大きな祝福のかたちです。約束の子キリストが与えられてしまった以上、子を持つ重要性は第二、第三のことに過ぎません。

・あなたのみ顔を見る わたしは、義においてあなたの顔を見るであろう。私は目覚めるとき、あなたの「似姿」(temūnātekā)、「イメージ、かたち」を見るであろう。創世記 1:26 の神の「かたち」、「似姿」 「besalmenū kidmūtenū とは、用語は微妙に違っています。私たちは何に、どなたに、満足するでしょうか ('sbe'āh, 継続形です!)。ものも大切ですが、決してものの豊かさだけではないのです!